

じょうどうえ 「成道会」

平成21年 12月 第1週放送

じょうどうえ
本日は、「成道会」についてお話をいたします。

しゃか しょうこく おうじ なにふじゆう かいけつ
お釈迦さまは、インドの小国の王子として生まれ、何不自由も無く育ちますが、やがてどうしても解決の
う お やまい め にじゅうきゅうさい
出来ない「生まれる苦しみ、老いる苦しみ、病の苦しみ、死ぬ苦しみから抜け出したい」との思いで二十九歳
しゅつけ
の時に、出家されました。

だんじき しゅぎょう はんだん じょうたい くぎょう
六年間の断食などの苦しい修行をされましたが、正しい判断も出来ない状態になってしまう苦行で
え きつ
は、何も得られない事に気付かれました。

むすめ ちちがゆ かいふく
苦しい修行から離れたお釈迦さまは、スジャータと言う娘さんから乳粥をいただき、体力を回復して、
がわ からだ きよ けいけん ふ かえ すべ め
ニレンゼン河で体を洗い、身を清められ、これまでの経験を振り返り、総てが、苦しみから抜け出すには
ふじゅうぶん
不十分であったと分かりました。

ぼだいじゆ もと しず すわ さと ざ けつい かた ざぜん
そして菩提樹の下でひとり静かに坐り、正しい悟りを得るまではこの坐を立たない、と決意を固め、坐禅
く
を組まれたのです。

じぶんじしん よわ まよ おさ こくふく じゅうにがつようか あ がた いた
自分自身の弱さや迷いを抑え、それらを克服し、ついに十二月八日の明け方、お悟りに至るのです。

しゃか な じょうどう
この、お釈迦さまが、ものごとの正しいありようと、人間の正しい生き方を、お悟りに成られたことを「成道」
というのです。

ちな そうとうしゅう かぎ ぜんしゅう しゅぎょうどうじょう じゅうにがつついたち じゅうにがつようか
この事に因み、曹洞宗に限らず禅宗の修行道場では、十二月一日より十二月八日まで、
いちにちじゅうざぜん しゅぎょう
一日中坐禅をする修行が行われます。

そうとうしゅう しゃか ほんぞん おし まわ ひとびと と
曹洞宗はお釈迦さまを本尊としています。それは、お釈迦さまがその教えを周りの人々に説かれ広め
られたからこそ、なのです。お釈迦さまが教えを説かなければ、仏教も無かった訳です。
ぶっきょう な わけ

さんじゅうごさい ひら ひとびと と はちじゅうさい
三十五歳でお悟りを開かれたお釈迦さまは、多くの人々に教えを理解するまで説き、八十歳でお亡く
よんじゅうごねんかん たび さいご
なりになるまでの四十五年間、教えを伝える旅を最期まで続けられたのです。

お釈迦さまのお悟りになられた事を感謝して行う『成道会』は、私たち仏教徒にとって、とても大切な日となるのです。